

年度	平成16～18年度
----	-----------

**基本目的 7 確かな学力と豊かな人間性をもった子どもが育つ**

**行動目標 7-1 児童、生徒が社会人となるための基礎が培われる (所管課名 教育委員会教育施設課)**

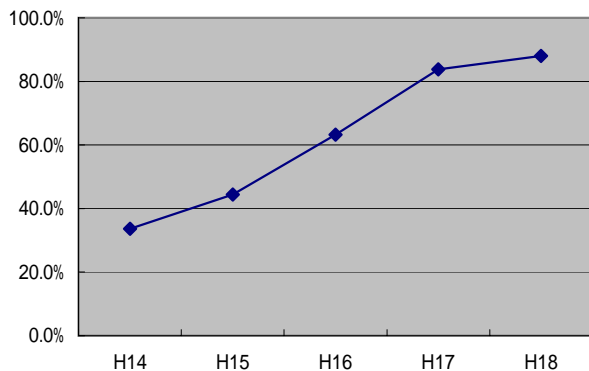
**任務 安全で安心できる快適な学校施設づくりを推進する**

**任務の成果・活動指標の推移**

**安全安心・学校施設環境整備進捗率**

H14実績	33.6%
H15実績	44.4%
H16実績	63.2%
H17実績	83.8%
H18目標	88.0%

安全安心・学校施設環境整備進捗率推移



**指標の説明**

一部事業の進捗状況ではわかりにくいことから、安全安心のための主要な事業である耐震補強事業、バリアフリー化事業、給食室改修事業、改築整備事業に加えて防犯対策事業の各進捗状況を総合した進捗率を指標とした。

**任務に対する評価**

**これまでの取組と成果、手段の妥当性**

**平成16～17年度**

安全安心の施策  
 ・校舎等の耐震補強整備--当初予定していた小中の校舎等の補強整備を終了。  
 ・バリアフリー化整備--小中合わせて14校を整備し、整備率は52/62(校数、一部施工も算入)。  
 ・給食室衛生管理強化改修--6校を整備し、整備率は26/36(延べ校数)。  
 ・防犯カメラ整備--優先整備し小中幼とも設置を完了。  
 校舎等の改築整備--4校の一括整備を推進するPFI事業に着手、計画どおり進捗し2校が竣工し、早期の教育環境の向上を図ることができた。  
 アスベストが社会問題となる中、緊急に状況調査あるいは対策工事を行う必要が生じたが、施工を完了させ、不安を解消した。  
 これら取組みの結果、すこしづつではあるが安全安心な学校施設環境を向上させることができた。

**平成18年度**

引き続き安全安心のためのバリアフリー化、給食室改修等の施設整備を推進していく。  
 老朽化対策としての改築整備では、PFI事業での残り2校を竣工させ、加えて従来手法での改築整備を実施着手する。  
 校舎の増築やリースによる教室を整備し学校運営に支障のないよう対策を講じていくとともに、計画的な修繕等を行い適正な維持管理に努めていく。

**これからの課題、施策等展開の方向性**

引き続き安全安心のためのバリアフリー化(現在の整備に加えて垂直移動対策としてのエレベータ整備を含む)、給食室改修等の施設整備を推進していく必要がある。  
 小中の校舎体育館以外の建物(1階建ての幼稚園等)の耐震性の確認も必要である。  
 学校の適正規模、適正配置の見直しを踏まえた総合的な観点からの整備方針の基に、校舎等の老朽化対策の改築整備や、延命化を図る大規模改造等、中長期の整備計画による施設整備を施行していく必要がある。  
 教育内容や方法の変化、生活様式の変化や地域とのかかわりに対応した施設整備や、環境整備の改善も必要である。  
 環境問題でありながら措置が遅れている、焼却炉の処分も計画的に実施していかなければならない。